

## 「主を試みる」

2014年07月04日

マルコによる福音書1章12節～13節。「それから、“霊”はイエスを荒野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。」

主イエスは神の国の宣教に入る前、サタンから誘惑を受けている。マルコ福音書は上記のように短く2節で書いているが、マタイ、ルカ福音書は三つの誘惑があったと詳しく記している。主イエスは、神の言葉への絶対的信頼に立って、それらを退けられた。主イエスの公生涯は、神の言葉への信仰に貫かれた宣教であったと伝えている。今日は、マタイ福音書の二番目の誘惑について書きたい。

悪魔は、主イエスを聖なる都の神殿の屋根の上に立たせ、「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある」と、詩編91編11節、12節を引用し、神の言葉に信頼して、高い所から飛べと誘惑する。私は、この聖句を読むたびに、高層団地から飛んで自死した若い3人のことを思い出し、胸が痛む。主イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言って、誘惑を退けられた。

「あなたの神である主を試してはならない」という言葉は申命記6章16節からの引用であるが、その故事は出エジプト記17章1節～7節に記されている。出エジプトした民はマサ（試み）で水に渴いた。民はモーセに「我々に飲み水を与えよ」と迫り、石で打ち殺そうとする。モーセは神に命じられ、杖で岩を打つと水が出て、民は飲むことができた。その最後の個所で「『果たして、主は我々の間におられるのかどうか』と言って、モーセと争い、主を試したからである」と結んでいる。「主を試みる」とは神はおられないという不信への誘いである。

悪魔は、主イエスを高い神殿の屋根から飛び降りてみよ、地面に叩き付けられる前に、天使が手で支えるかどうか、神を試みてみよ、「アッと驚く」奇跡によって、神の实在を確かめよと誘っている訳である。人は苦しみが深ければ深いほど「アッと驚く」奇跡を望む。神が本当におられるのなら、どうしてこんな苦難を与えるのか。救いの手を伸べてくださっていいではないか。ご利益宗教がはびこる理由は、ここにある。

ある母親が二人目の子どもを出産した。その子どもは障がいを持って生まれてきた。彼女は嘆きの中で、家族共々懸命に育てた。子どもを寝かしつけながら祈った。明日、目覚めた時、この子が健常な体になっていますようにと、毎晩真剣に祈り続けた。しかし、そのような奇跡は起こらなかった。そして何年か経った時、この子は、私たちの家族に育てなさいと、神から与えられた賜物ではないかと思うようになった。「アッと驚く」奇跡は起こらなかった。しかし、障がいを持つ子どもを通して、神は生きておられ、恵みをくださっていると受け止める信仰を与えられたと言われたのです。

「主を試みる」とはハッピーなことが得られないという不信と不満でしょう。私が願う幸せが与えられなくとも、生きて働かれる神は恵みを示してくださる。これを求めて今を生きることが私たちの求道であり、また、誘惑を退けた主イエスに従う信仰である。